

安心して暮らせるまちづくりのために 栄・防災ボラネット通信

発行：横浜栄・防災ボランティアネットワーク

31号
2020-3

2019年度(令和元年度)災害ボランティアセンター開設・運営訓練報告

日時：2020年(令和2年)年2月17日(火) 9時～12時

場所：栄図書館、ピアハッピー栄(栄区福祉保健活動拠点)

参加者：26名(横浜栄・防災ボランティアネットワーク、栄区役所、栄図書館、栄区社会福祉協議会)

栄・防災ボラネットの参加者には、予め社協に集ってもらい、必要物品の運び出しを手伝って頂きました。

図書館では参加者全体でそれぞれのポジションの確認を行いました。"想定通りに準備ができていないか"ではなく、"限られた環境でベストな状態に準備ができていないか"というまさに臨機応変さを踏まえた意見出しが行えました。栄区社協からは統括として動く職員が初めての参加であり、指示不足や説明不足が目立ち、スムーズに進行したとは言えませんでした。また、社協のマニュアルと栄・防災ボラネットとのマニュアルの中で差異があり、設営の部分で混乱が生じたのは今回の反省点であると考えています。その中でも「この部分はこう変えたほうが良い」など意見が出たのはとても貴重だと感じました。

後半は栄図書館から栄区社協に戻り、受付訓練を行いました。今回は新しく栄・防災ボラネットのメンバーが考案してくださった Excel のマッチングシステムを使用し、登録票に記載されたボランティアの情報を入力する練習を実施しました。便利で効率化できるという意見がある一方でパソコンを普段使い慣れていない方が苦戦したり、活動日数の入力などに課題が出ました。今後は意見を基にシステムの更新と練習を重ねていけば、良い仕組みになるのではないのでしょうか。

災害ボランティアセンターを設置・運営するためには、地道な訓練を重ねることが必要です。社協職員として、内部で理解を深めることはもちろん、多くの人を巻き込んで、みんなで進める災害への備えの大切さを感じました。今後は、栄図書館での訓練だけでなく、各ポジションの細かい訓練など、継続的に実施していきたいと思えます。

(記：栄区社協 蒲田)

【訓練の流れ】

前半：設置訓練

⇒要請を受けてから、図書館に災害ボランティアセンターを立ち上げる。

後半：受付訓練

⇒ボランティア登録票に基づいてマッチングシステムに入力を行う



「災害時にどう備えるか」～地域のつながいをめざして～

日 時：2019 年 12 月 1 日（日） 場 所：栄区社会福祉協議会 団体研修室

参加者：地域防災拠点 7 名、民生委員・防災委員 13 名、区 4 名、区社協 3 名、
栄・防災ボラネット 16 名

計 43 名

1. 説明

◆台風 15・19 号等の被害状況・対応について（区）

台風 15 号（9 月 9 日）、19 号（10 月 12 日）の上陸に対応して、①事前会議・災害対策本部設置・避難所開設について、②時系列の説明、③広報、④避難状況、⑤被害状況等の説明がありました。

◆地域防災拠点について（区）

「みんなのいのちと健康と安全を守れる避難所」を目指すために、地域防災拠点の基本的役割や、平常時の訓練に必要なメニューの詳細な説明がありました。防災拠点のこれまでの訓練（例：消火器や三角巾、ロープの結束、AED の取り扱い、起震車体験）ではなく、避難所開設・運営するための訓練を実施することが必要で、避難者もできる範囲でその担い手になることが大切であるとの説明がありました。

◆災害ボランティアセンターについて（社協）

災害ボランティアセンターとは？ から始まり、だれが立ち上げる？ どこに？だれが運営する？ 等の説明に続き、ボランティアセンターの業務内容、ボランティアが担えることなど、大変分かりやすい説明がありました。また、ボランティアセンターの運営に協力する栄・防災ボラネットについても、その設立経緯と、平常時に行っている防災講座の内容についての紹介もしていただきました。

2. クロストーク「防災訓練について」

…参加者全員で意見交換

今回は、前段の説明にもあった地域防災拠点の訓練、そして町内で行われている様々な形の訓練が、地域の防災意識の向上や連携強化に繋がり、全体として防災力がアップするのではないかと考え、防災訓練を中心テーマに話し合っていました。

参加者は 7 グループに分かれ、どのグループも活発な意見交換がなされました。内容については、別紙「討議記録」をご覧ください。

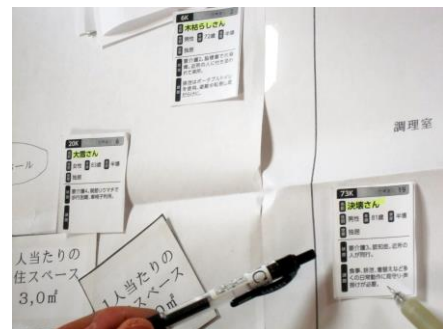


笠間地域ケアプラザの福祉避難所開設訓練 「HUG 避難所運営ゲーム」

2月、笠間地域ケアプラザでは、所内会議の際に、福祉避難所開設訓練として、「HUG 避難所運営ゲーム」をおこないました。～開設指示が入り～ 通電・水道チェック。備蓄庫の場所は？ 備蓄品をどこに置く？ 何を持ってくる？ 間仕切りは？ 入口に福祉避難所であることを目立つように張り紙を！～区から受け入れ打診が入り～エレベーターが動かなければ、車いすの方の受け入れが難しいのでお断りして良い？ 通電の有無で、受け入れ可能か否かが、変わってくる。毛布でくるみ、3階に運ぶ？ 職員の配置は？ トイレの対応方法、排泄物の処理方法、置き場を決めておく。等々、訓練してみて沢山の課題が浮かび上がりました。

開設準備チェックシート、受け入れ確認チェックリストの作成をしておくの良いなど、さまざまな意見が出ました。実際にはもっと混乱しているので、受け入れ側も、冷静な判断ができるか心配ですが、HUGゲームを通して、いつかきつと来るであろう災害にほんの少し向き合うことができました。

(奥村 記)



HUG ゲームとは

HUG は、H (hinanzyo 避難所)、U (unei 運営)、G (game ゲーム) の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせています。

もし、あなたが避難所の運営をしなければならない立場になったとき、最初の段階で殺到する人々や出来事にどう対応すれば良いのでしょうか。避難所 HUG は、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

プレイヤーは、このゲームを通して災害時要援護者への配慮をしながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、思いのままに意見を出しあったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができます。

－静岡県地震防災センター ホームページより－

HUG パッケージ (購入することができる)

- カード4セット (4グループ分)、1セットは250枚のカードで構成
- 取扱説明書 (HUGの進め方、体育館・教室平面図などのゲーム用シート)
- 説明用の画面と台本等を収めたCD

ゲームの進め方

- 会場準備とゲームの説明をする
- 1グループで一つのテーブルを囲む。7人以下が良い。(1人は読み上げ係)
- 読み上げ係は避難者カードを読み上げプレイヤーに渡す。プレイヤーは相談して平面図に置く。
- すべてのカードが配置されれば終了、その後、感想や意見交換の時間を必ず設ける。

－地域防災図上演習の進め方より－

<活動報告>

① 第3回災害ボランティアネットワーク・Bブロック会議

日時 令和元年2月18日(火) 18:00~19:45

場所 金沢区福祉保健活動拠点 2階多目的研修ホール
栄区(宇田川、藤田、早福、社協蒲田)が参加。



開会挨拶後(深浦災ボラ代表、西浦社協事務局長)
4グループに分かれ、主にニーズの把握、防災拠点と
ボラセンとの関係性に対して活発な議論が展開され、後
にグループごとに発表した。予想通り各区に時間差
があった。各区の防災拠点と災ボラの取り組みに対し、
宇田川代表が栄災ボラの取り組みを発表した。

次回開催の日程(幹事区戸塚:6月19日予定)を確認し、閉会(神田副代表閉会挨拶)した。
なお議論の初めにDITSの紹介が深浦代表よりあったが、各グループの議論の対象にならなかった
ようだ。注)DITS(ディッツ)は東海大学内田教授が開発した、スマホ等で発信する災害情報アプリ。

(早福 記)

② 笠間Bブロックふれあいサロン防災講座「災害に備えよう」

日時:2020年2月21日(金) 10:00~12:00 場所:かさまゆうわ館

参加者(役員・スタッフ):11名 ボラネット協力者:宇田川、大森、早福、山崎

当日の朝、新型コロナウイルス感染拡大防止のためのイベント自粛要請を受け、急遽中止となり
ました。準備してくださった役員・スタッフの皆さんと一緒にクロスロードゲームを行いました。



クロスロード出題



クロスロードタイム1班



クロスロードタイム2班

新型コロナウイルスは

2019年12月に中国の湖北省武漢市で「原因不明のウイルス」として最初の症例が
確認され、その後中国以外の国と地域に拡大して、2020年1月31日にWHO(世界保
健機関)が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言、そして3月11日
にはパンデミック相当との認識が表明されました。国内では4月7日に7都府県について
「緊急事態宣言」が発令され、17日には全国に拡大されました。さて、皆様はどのよ
うに対応されていますか? 今は一人ひとりができることを、しなくてはいけないこと
をしっかりと行い、元気に明るく自分の責任を果たしましょう。 記:大森

ホームページをご覧ください!

「栄防災ボラネット」で検索してください。

横浜栄・防災ボランティアネットワークへの連絡は

栄区社協:TEL 045-894-8521

FAX 045-892-8974